

報告者：用松節子

カンファレンスまであと2週間を切り、印刷物・報告書等の最終チェック作業に追われています。

本日各グループからの報告書も出揃い、印刷依頼した内容を眺めながら、「たった3ヶ月間にも関わらず、随分いろんなことがあったな・・・」と、しばし懐かしいような思いにふけておりました。

7月開始当初、「果たしてどこまでできるのだろうか?」「動いてみて、結果支援企業0(ゼロ)でも、そのプロセスを堂々と皆さんに発表しよう(失敗例でもいいんだ)」と数人の核となるメンバで自分達のミッションを確認し合いながら始めたこの企画。

8月、公募で集まった15名の皆様との対面。

直前まで我々の思いを理解していただけるだろうか、との不安の中、第1回顔合わせを行いました。

重々しい空気の中、一通り説明が終わった後、どなたかから、

「つまり、我々は大田区企業様へ支援参加を呼びかけるところから始める、ということですね」
との確認。

「はい、その通りです」

と答える私。・・・しばしの沈黙。(私にはとても長く感じました)・・・

「わかりました。やりましょう。」

その後はご存知の通りです。

15名の実践メンバの方々は即座に行動を開始して下さり、次々と大田区企業への訪問が始まりました。

寄せられる実践状況の速さと情報の多さに、追いついて行くのがやっとでした。

「感動」という言葉はこういうときに使うのだな、と思いました。

9月初め、予想を上回る8社の企業様から支援希望があったことに喜びの祝杯をあげたこと。

それから実際に支援企業様にお伺いして、経営者の皆様がいかに真剣に会社の経営を考え、そして悩みを抱えられているかを肌で感じ、我々がどんな形でご支援できるか、どういう姿勢で取り組まなければならないか、何度も何度も実践メンバの方々とディスカッションしながら確認しあうことができました。

机上の「あるべき論」は話すことが出来ても、それを現実の企業実態に合わせた形で、しかし企

業全体を俯瞰しつつ経営者と共に進むためには、もっともっと学ばなければならないことを実感しました。

そして参加して下さったITC諸先輩方のプロとしての厳しく、そして暖かい励ましに、くじけそうになる気持ちを何度も助けていただきました。

結婚式のスピーチではありませんが、 $1 + 1 = 2$ でなく、うまくいけば3にも4にもなることを感じました。

しかし、そこには何か掛け違いがあると、2どころか、1以下、果てにはマイナスになってしまう恐れも秘めています。

カンファレスでは、より多くのITCの皆様といい形で共有できる場が持てたらと思っております。